

島根リハビリテーション学院

役員の変更・就任式

六月一日、島根リハビリテーション学院で、役員の変更式並びに就任式が行なわれ、職員や学院生約二百五十人が出席しました。

式では、退任される岩田一郎前理事・前町長、下山誠前理事長・前学院長へ花束や感謝状が贈られ、新理事長に就任した、井上勝博町長、谷河精規新学院長からそれぞれ挨拶がありました。



退任された下山誠学院長(左)と新任の谷河学院長(右)

退任式では、岩田前理事長から「国家試験の合格はもとより、日本や世界のリハビリ医療の最先端で活躍されるよう念願します」とあいさつがあり、下山前学院長から「勉学に課外活動に益々励まれるよう期待します」と学院生を激励しました。

また、井上理事長と谷河学院長から「これまで二人が築かれた開学精神を更に発展させ、今後の学院づくりに取り組むたい」とあいさつがありました。

岩田前理事は、当時県内一ヶ所の設置も厳しいという設置基準の中で、四年制の医療技術専門学校として全国的にも数少ない町全額出資の学校法人として設立。

最新の設備を完備した学舎や各種スポーツ施設、学生住宅の建設整備、学院生への経済的支援を図るなど、学院の教育環境整備の充実に尽力されました。



退任・就任式の様子

また、下山誠前学院長は、島根医科大学の学長を退職された後、各方面から多くの就任要請がある中、平成十五年に理事長、平成十六年に学院長に就任になり、これまで、卒業生への高度専門士の称号を付与できる認可の取得をはじめ、全国に先駆けた、西日本で唯一、評価機構による優れた教育機関として認定を受けるなど、学院の改革に取り組まれました。

なお谷河新学院長は、平成十九年四月に島根大学名誉教授となられ、昨年から当学院の講師として学生の教育に携わっていただいております。学院の教育理念・目標を引き継いで、学生の指導にあたっていただきます。

教育委員の人事異動

5月24日付けをもって、勝田稔教育委員長、若槻慎二教育長が任期満了となり、5月15日の第3回奥出雲町議会臨時会において、新しい教育委員に、安部 隆氏(中村)、石原道夫氏(八代)が任命され、議会の同意が得られました。

これを受けて、5月25日、教育委員会が開催され、教育委員長に松浦 昇氏(中村)、教育長に安部 隆氏が就任されました。

退任のあいさつ



前教育委員長 勝田 稔

このたび、任期到来をもって教育委員を辞めさせていただきました。

老骨不肖をかえりみずの四年間、皆様の代表として何ができたかと思いますが、お恥ずかしい限りでございますが、なんとか大過なく任務を全うできたと思えば、ただ感謝あるのみでございます。



前教育長 若槻 慎二

この度、任期満了により五月二十四日をもって、奥出雲町教育長を退任いたしました。

顧みずと、各種団体や学校教育予算など旧町で異なっていた事柄の統合・統一や横田中学校の大規模改修をはじめとする教育環境整備に、財政を取り巻く環境が厳しい中、議会をはじめ、関係諸団体や町民の皆様にご多大なご支援を頂きましたことに感謝いたします。

就任のあいさつ



教育委員長 松浦 昇

このたび、教育委員長に推挙され、その任をお受けすることとなりました。

浅学非才の私には、甚だ大任ではございますが、奥出雲町の教育のために、全力を尽くしてその任を遂行していきたいと存じます。

さて、奥出雲町の現状をみると人口減少、少子化と高齢化が進み、教育委員会の管轄である社会教育分野、学校教育分野において、



教育長 安部 隆

このたび、教育長を拝命いたしました。

「教育、文化、体育・スポーツの面において、町民一人ひとりが夢を語り、より豊かに生きるふるさと」の実現に向け、まず、全国や県内の他市町村に誇るべき歴史、文化、スポーツなど、地域の財産を町民一人ひとりが誇りを持ち、夢を広げることができるよう、

認証第1号 奥出雲椎茸 安全で美味しい島根の県産品に認証

島根県が今年度から導入した「安全で美味しい島根の県産品認証」の第1号に、奥出雲椎茸の生シイタケ(菌床栽培)が選ばれ、6月11日に溝口県知事から認証書が交付されました。

奥出雲椎茸は、県の定める衛生管理など66項目の基準をすべてクリアし、審査員による厳しい現地審査の結果、生産から出荷までの各段階において、高い安全性が認められました。

奥出雲椎茸の川西功徳部長は「今回の認証は、生産業務に携わる従業員や生産農家の意識向上につながった。これからも品質管理を徹底していきたい」と話されました。

既に奥出雲椎茸は、仁多米、仁多牛に次ぐ、奥出雲町を代表するブランド品であり、今回の認証により、さらに品質の良さ、安全性のアピール度が増し、市場での競争力が一層高まると期待されます。

溝口県知事から認証の交付を受ける川西部長

育分野においても、様々な課題が増えてきています。

社会教育分野では、地域の文化、スポーツ、生涯学習等の活動が後継者の問題、組織の縮小等により、保存、継承に支障をきたしています。

また、学校教育分野では、少子化による極小規模校の問題、幼保の一元化等が考えられます。

教育委員会として、これらの諸問題に将来を見通した視点に立って、取り組んでいきたいと思っておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

一つ一つの評価、情報発信に心掛けたいと考えています。

また町内教育施設の整備、「学ぶ意欲」と「学ぶ力」の育成、不登校や生徒指導上の諸課題の解消、地域文化・スポーツ活動の振興等に係る方針決定や具体的な対応など、早急に解決すべき課題もあり、関係組織との連携・協働を大切にして取り組むことが大切です。

皆様のご理解、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。